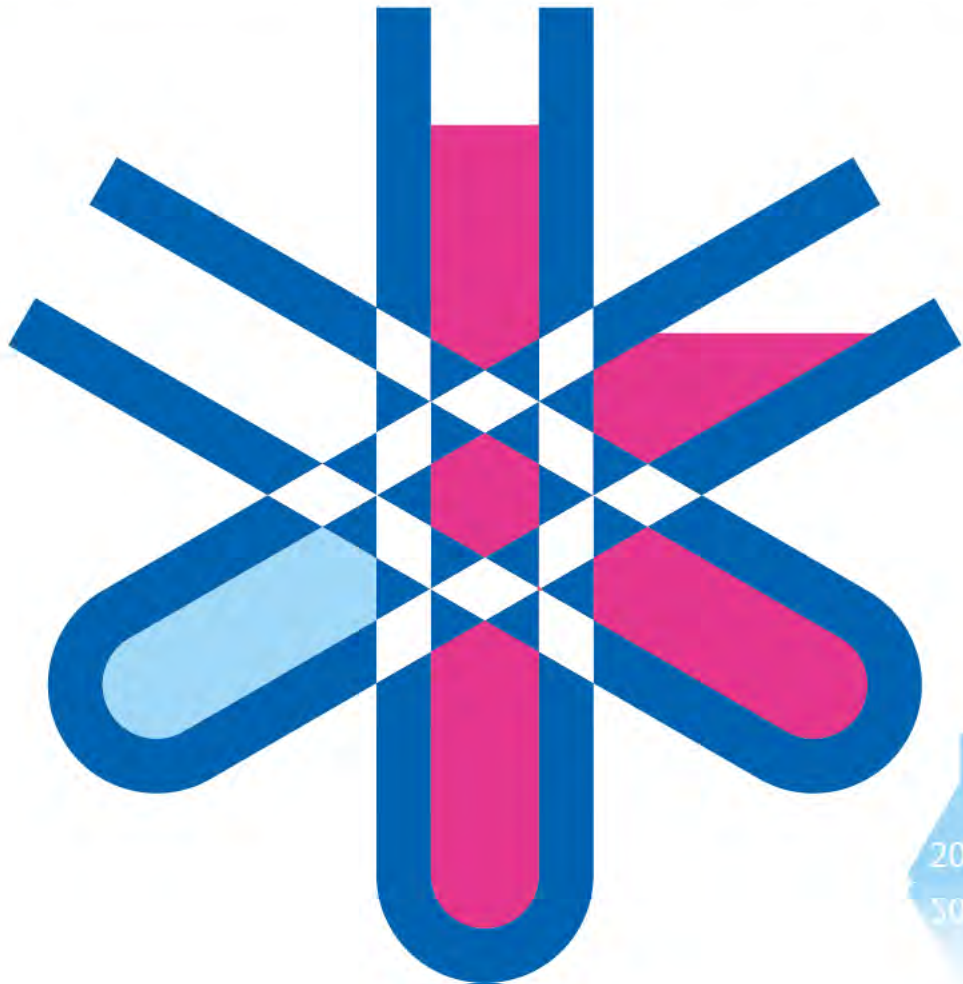


横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成27年1月号 目次

【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 ―平成26年6～10月― 1

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 12月 3

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 7

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果

—平成26年6～10月—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として主に市内公園および港湾地区等において蚊成虫生息状況調査を行っています。平成26年8月には、約70年ぶりにデング熱の国内発生がありました。デング熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などの蚊媒介感染症は、それぞれ主要媒介蚊が異なります。したがって、平常時よりその地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことは、感染症発生時に防除対策を立てる上での基礎資料となります。

平成26年は6月から10月にかけて横浜市内19ヶ所（各8回）で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました(図1)。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました(写真)。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、トラップを一昼夜運転しました。捕獲された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については、横浜市衛生研究所ホームページに掲載しています。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。



写真 CDC型ライトトラップ

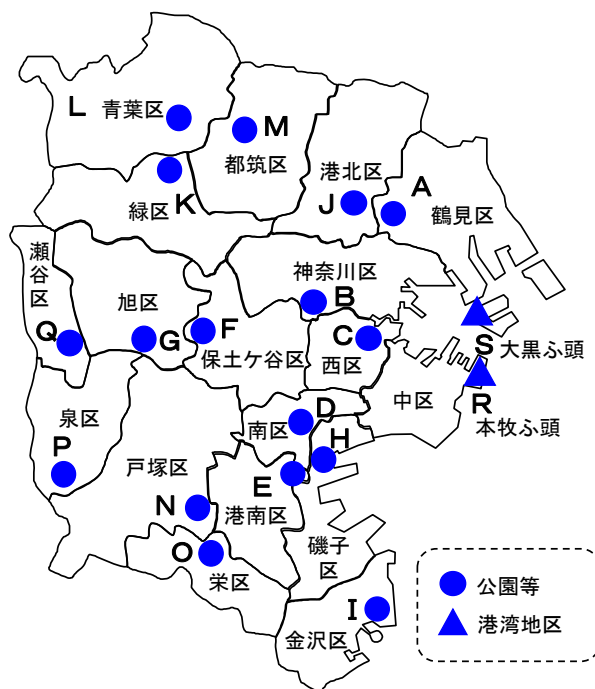


図1 蚊成虫捕獲調査地点

〈捕獲された蚊の種類と個体数〉

捕獲された蚊の種類と個体数を表に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、6属12種7,806個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ 6,309個体(80.8%)でした。次いで、アカイエカ群が1,149個体(14.7%)、キンパラナガハシカが185個体(2.4%)捕獲されました。

表 捕獲された蚊の種類と個体数

属	種	個体数		
		雌	雄	合計 (%)
イエカ属	アカイエカ群*1	1,145	4	1,149 (14.7)
	コガタアカイエカ	17	0	17 (0.22)
	カラツイエカ	16	0	16 (0.21)
	トラフカクイカ	2	7	9 (0.12)
	ミナミハマダライエカ	2	0	2 (0.03)
	ヤマトクシヒゲカ	1	0	1 (0.01)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	5,548	761	6,309 (80.8)
	ヤマトヤブカ	63	10	73 (0.94)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	18	0	18 (0.23)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	157	28	185 (2.4)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	10	0	10 (0.13)
チビカ属	フタクロホシチビカ	2	1	3 (0.04)
その他*2		14	0	14 (0.18)
合計		6,995	811	7,806



アカイエカ群



ヒトスジシマカ

*1:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。

3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査では、アカイエカ群として扱われている。

*2:破損の激しいもの

〈調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、西区公園(C)で2,149個体、次いで、鶴見区大黒ふ頭(S)で1,054個体、磯子区公園(H)で681個体でした。また、港湾地区の中区本牧ふ頭(R)、鶴見区大黒ふ頭(S)はアカイエカ群優占、その他の調査地点はヒトスジシマカ優占でした。

アカイエカ群とヒトスジシマカの生態は、検査情報月報2011年1月号「[横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果\(平成22年6～11月\)](#)」に掲載されています。参考にしてください。

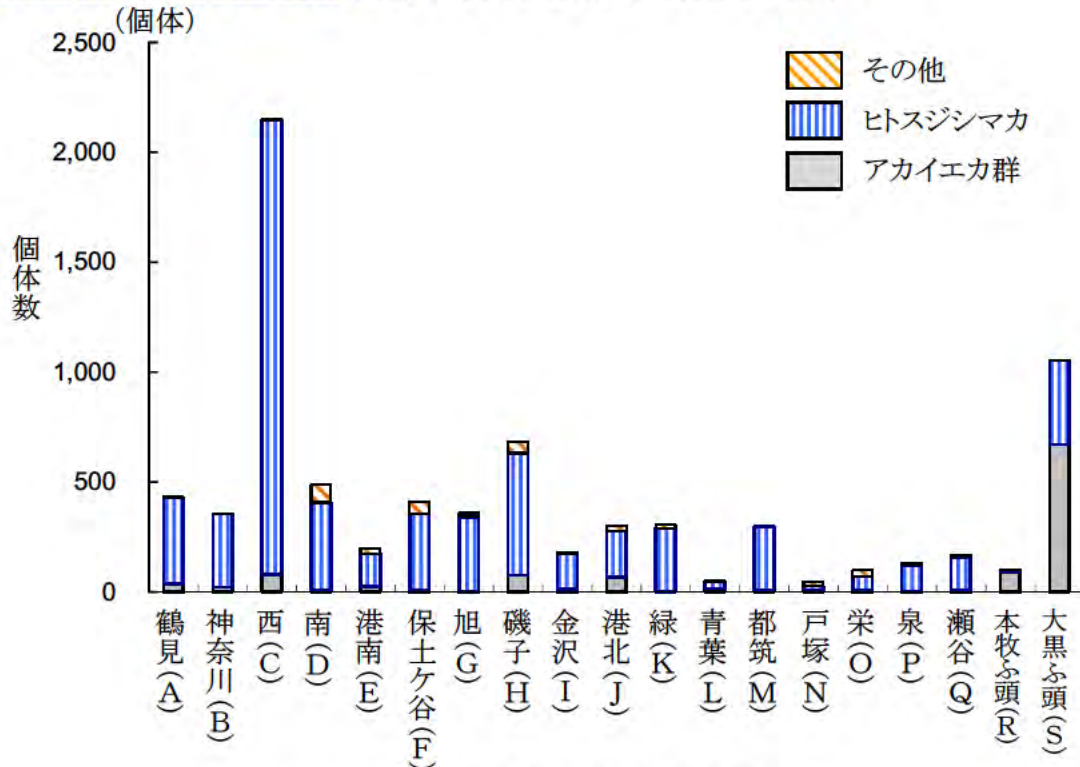


図2 調査地点別の蚊捕獲数

【 検査研究課 医動物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 12月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ注意報が昨シーズンより5週早く発令されました。
- RSウイルス感染症の報告が近年で最も多い状態が継続しています。
- 感染性胃腸炎、伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加傾向です。

全数把握疾患 12月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	4件
マラリア	1件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	水痘 (入院例に限る)	1件
急性脳炎	3件	梅毒	2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計3件の報告がありました。原因が明らかになった事例や集団感染事例はありませんでした。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにすることが大切です。

＜マラリア＞熱帯熱マラリアの報告が1件あり、渡航先 (コスタリカまたはコートジボワール) での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型3件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件はタイでの経口感染、もう1件は国内での同性間性的接触、残る1件は感染経路等不明でした。

＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞6件の届出があり、すべて70歳代以上でした。院内での集団感染等はありませんでした。

＜急性脳炎＞3件の報告がありました。そのうち2件 (幼児および40歳代) では迅速検査でインフルエンザA型陽性でした。残るもう1件は学童で病原体検索中です。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞2件の報告があり、1件は90歳代男性で血清型はG群、もう1件は30歳代女性で血清型はA群でした。どちらも感染経路等は不明でした。

＜後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者4件の報告があり、うち2件は国内での同性間性的接触、1件はベトナムでの異性間性的接触、もう1件は異性間性的接触による感染で、感染地域不明でした。

＜ジアルジア症＞1件の報告があり、インド (ムンバイまたはハイデラバード) での経口感染が推定されています。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞60歳代男性1件の報告がありました。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞幼児1件、学童1件、成人4件の報告がありました。幼児は予防接種歴 (13価) が2回有りました。成人例は1件 (80歳代) で予防接種歴 (今年9月に23価型接種) が有りました。この例では血清型は1型でした。他は予防接種歴が確認できませんでした。

＜水痘 (入院例に限る)＞90歳代の届出が1件ありました。予防接種歴は不明でした。

＜梅毒＞早期顕症梅毒 I 期1件、無症候期1件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染でした。

定点把握疾患 平成26年11月24日から平成26年12月21日まで(平成26年第48週から平成26年第51週まで。ただし、性感染症については平成26年11月分)の横浜市感染症発生动向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

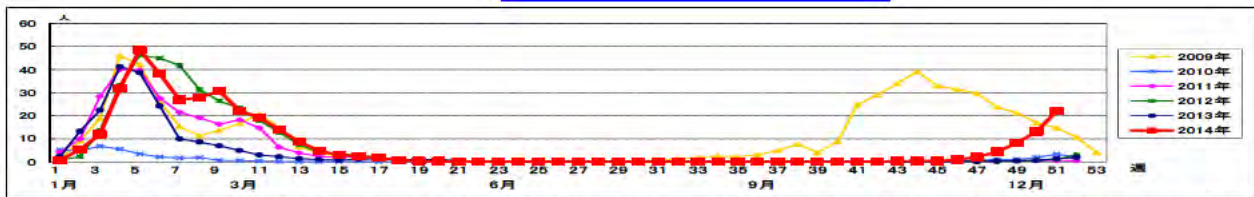
平成26年 週一月日対応表

第48週	11月24日～11月30日
第49週	12月1日～12月7日
第50週	12月8日～12月14日
第51週	12月15日～12月21日

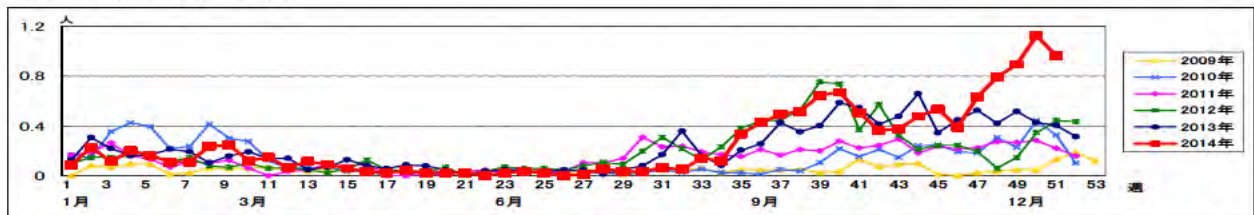
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

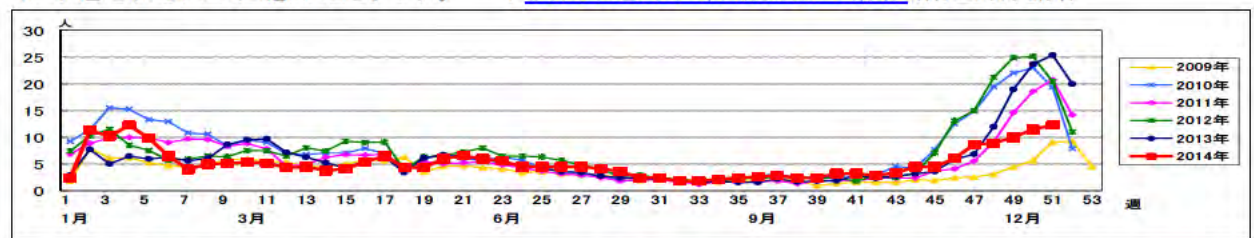
<インフルエンザ>第50週に市全体で定点あたり13.22となり、注意報が発令(注意報発令基準値10.00)されました。昨シーズンより5週間早い注意報発令です。第51週は市全体で21.96とさらに増加しています。入院例やインフルエンザ脳症も報告されており、今後の流行に注意が必要です。流行の主体は全国と同様にAH3亜型(A香港型)です。 ◆[横浜市インフルエンザ臨時情報](#)(衛生研究所)



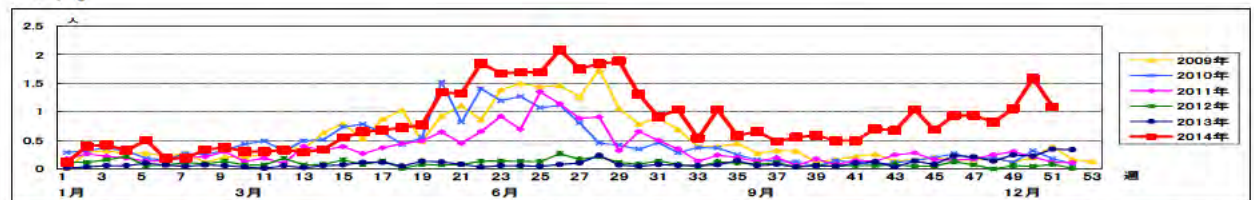
<RSウイルス感染症>第51週は市全体で定点あたり0.96と今シーズン最多になり、2009年以来最も報告数が多くなっています。



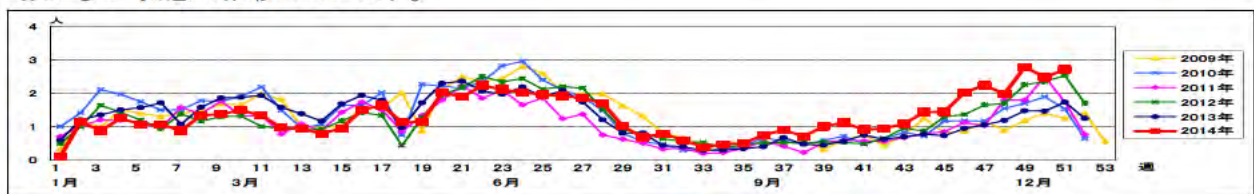
<感染性胃腸炎>今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少ないですが、第51週12.28と増加傾向です。集団感染の検体からはノロウイルスが検出されています。これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。 ◆[横浜市感染性胃腸炎臨時情報](#)(衛生研究所)



<伝染性紅斑>8月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、最近はやや増加傾向です。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>第51週は市全体で定点あたり2.72と増加傾向です。例年よりやや報告数が多い状態で推移しています。



<性感染症>11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第48週1.50、第49週0.33、第50週0.00、第51週0.00となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件、内科定点14件、基幹定点6件、眼科定点1件で、定点外医療機関からは4件でした。

1月13日現在、ウイルス分離48株とウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(12月)

臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ [*]	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 ^{**}	胃 腸 炎
アデノ NT		1	1		1	
アデノ 2型					1	
アデノ 3型					2	
インフルエンザ AH3		1	42		1	
単純ヘルペス NT			1			
パラインフルエンザ 1型		1				
RS	2	3		1		
ライノ		1				
ヒトコロナ	2	2				1
サポ						1
合計	0 4	1 8	43 1	0 1	4 1	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*:疑い含む、** :アデノ感染症含む

NT:未同定、ヒトコロナウイルス:HCoV229E or NL63、HCoV-OC43

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から11件、その他が4件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O74:H11、O型別不能:H21)、腸管毒素原性大腸菌(O25:H-,LT+)、腸管凝集性大腸菌(O142:H12、O121:H+)が検出されました。腸管毒素原性大腸菌(O25:H-,LT+)と腸管凝集性大腸菌(O142:H12)はともにインドへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科から5件、基幹定点から2件、その他が17件でした。A群溶血性レンサ球菌のうち3株(T1の1株とT型別不能の2株)およびG群溶血性レンサ球菌1株の合計4株は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は2群、B群溶血性レンサ球菌は1b型でした。その他はコートジボアールへの渡航者から熱帯熱マラリア病原体の遺伝子が陽性でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	12月			2014年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					2	1
腸管病原性大腸菌					1	
腸管出血性大腸菌			3		1	98
腸管毒素原性大腸菌		1			4	
腸管凝集性大腸菌		2			3	
チフス菌					1	
サルモネラ					25	7
カンピロバクター				1		4
NAGビブリオ						1
ウェルシュ菌					1	
不検出	0	8	1	3	54	20

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	12月			2014年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	2		1	7		3
T4				10		
T6				6		
T9						1
T11				1		
T12	3			9		
T22						1
T B3264				2		
型別不能			2	3		3
B群溶血性レンサ球菌			1		4	19
D群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌			1			4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					19	2
<i>Legionella pneumophila</i>			1			9
インフルエンザ菌				1		8
肺炎球菌			9	1		85
<i>Neisseria meningitidis</i>						1
黄色ブドウ球菌				1		
結核菌						4
百日咳		1			2	
その他		1			11	6
不検出	0	0	2	7	1	46

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年12月)

平成26年12月の総アクセス数は、192,775件でした。主な内訳は、感染症情報センター81.8%、食品衛生2.5%、保健情報3.9%、検査情報月報1.2%、生活環境衛生1.4%、薬事0.4%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年12月)

12月のアクセス順位(表1)は、第1位が「横浜市インフルエンザ流行情報5号」、第2位が「横浜市インフルエンザ流行情報3号」、第3位が「横浜市インフルエンザ流行情報4号」でした。

12月の総アクセス数は、前月に比べ32%ほど増加しました。今月の1位から4位までを、インフルエンザ流

行情報が独占しました。今年は、例年に比べて、インフルエンザの発生が早く、横浜市内でも昨シーズンより4週早い警報発令となりました。迅速キットの結果では、ほとんどがA型です。今後、インフルエンザの本格的な流行期を向えるため、予防や早期受診などの対策が重要です。インフルエンザの予防としては、ワクチンが有効ですが、日常の手洗いやうがい、マスクの着用などがとても大切です。

表1 平成26年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市インフルエンザ流行情報5号	12,154
2	横浜市インフルエンザ流行情報3号	8,838
3	横浜市インフルエンザ流行情報4号	8,675
4	横浜市インフルエンザ流行情報2号	8,585
5	インフルエンザワクチンについて	6,404
6	横浜市インフルエンザ流行情報6号	6,366
7	衛生研究所トップページ	6,294
8	インフルエンザについて	5,196
9	横浜市感染症情報センター	4,359
10	案内リーフレット	3,481

データ提供: 市民局広報課

「横浜市インフルエンザ流行情報5号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji05.pdf>

「横浜市インフルエンザ流行情報3号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji03.pdf>

「横浜市インフルエンザ流行情報4号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji04.pdf>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成26年12月）

平成26年12月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 平成26年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
メキシコでの子供の定期予防接種について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成26年12月）

平成26年12月に追加・更新した主な記事は、20件でした(表3)。

表3 平成26年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 1日	横浜市衛生研究所が移転しました	掲載
12月 2日	平成23年度横浜市国保加入者の健診データ分析結果	掲載
12月 4日	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	更新
12月 4日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月 4日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
12月 8日	平成26年度蚊媒介感染症サーベイランス結果【速報版】	更新
12月11日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月11日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
12月11日	肺炎球菌感染症について	更新
12月16日	横浜市人口動態統計資料(平成25年)	掲載
12月17日	チクングニヤ熱について	更新
12月18日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月18日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
12月22日	イタリアのこどもの定期予防接種について	更新
12月22日	ベルギーのこどもの定期予防接種について	更新
12月24日	ポルトガルのこどもの定期予防接種について	更新
12月25日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月25日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
12月26日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載
12月26日	スペインのこどもの定期予防接種について	更新

【 感染症・疫学情報課 】